

第2回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨

1. 日時 平成 18 年 12 月 4 日(月) 10:00 ~ 12:30

2. 場所 主婦会館 プラザエフ 地下 2 階 クラルテ

3. 議題

(1) 発生源の追加について

(2) 発生源ごとの推計について

(3) 溶剤の出荷量等に係るアンケート調査の実施方法について

4. 出席者

委員: 浦野委員長、神成委員、桐明委員、柴田委員、高戸委員、高橋委員、
南齋委員、西村委員、野中委員、長谷川委員、保坂委員、油井委員

オブザーバー: 海野氏(日本クリーニング環境保全センター)

環境省: 松井大気環境課長、木田大気環境課長補佐、野沢大気環境課長補佐

事務局: 社団法人 環境情報科学センター

5. 議事内容

事務局より、発生源の追加について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 固定発生源以外の移動発生源や自然発生源についても把握することが必要との意見があったが、本検討会では、規制や自主的取組の進捗状況を把握するために、対策可能な固定発生源に係る排出量推計を主に実施し、移動発生源、自然発生源については別の調査で推計された排出量情報を用いて把握することとした。また、このような主旨を明文化することとした。
- ・ アパレル産業やコインランドリーにおいてもクリーニングと同様の洗浄が実施されているため、留意すべきである。
- ・ 粘着剤やゴム溶剤の使用工程を「接着」に含めるかについては検討が必要である。

事務局より、発生源ごとの推計について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 製品ごとに排出量を推計する場合、業界内部での出荷・購入の経路等に留意し、ダブルカウントを避ける必要がある。
- ・ 業種や業界団体への参加の有無によって排出抑制対策の実施状況が異なると考えられるので、留意して大気排出率を設定すべきである。

事務局より、溶剤の出荷量等に係るアンケート調査について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ アンケートの回収率を高めることが重要であり、内容の簡易化、業界団体や環境省の協力が不可欠。また、目的や情報公開時の留意点などを明確にすることが必要である。
- ・ 回答期間が短いため回答が困難な場合が予想されるので、柔軟に対応すべきである。
- ・ 用途の「その他」の欄に具体的に回答して頂くことで、「各製品の VOC としての出荷量の積みあげ値」と「溶剤の出荷量」との差異が検証できる。
- ・ 溶剤は商社等を通じて販売する場合があります、その場合には用途がわからないと考えられるので留意が必要である。
- ・ 石油精製のメーカーでは混合物の有機溶剤を出荷することが多く、単体溶剤の記載では大半が「混合溶剤のその他」になる可能性が高いため、「単体溶剤」の場合は純度に幅を設けることを検討する必要がある。

インベントリの集計に関するコメントを広く一般から募集することについて、さらに工夫して継続することとした。また、次回の日程について1月中旬を目途に調整することとした。

< 問い合わせ先 >

環境省 水・大気環境局 大気環境課 03-5521-8293